



ありがとうございます

三方ガラス窓　まさに完璧のアトリエセットの岩高繪画室。この患まれた校舎の一角落小笠原先生のご指導をいただき、藝術とはどう繪画とはどう学ぶことが出来たのでした。その卒業生の一員として今も楽しいお仕事をさせていただいている事もありがたく、自信のある時、ない時、逃げたい時、日々それはどちらでも制作の喜びを語るバーレットの輪の中の一員になれている事を感謝している自分です。

平成二十七年十一月にギャラリー彩園子を会場にした小笠原哲治門下生繪画部初めての「石桜モンバルナス展」をとても喜んで会場でも「ベリー・グー」を連発してくださった西在家寛先生のお手紙一部ご紹介させて頂きます。

『手紙の余白を利用して戯れ一つ進呈！お笑いあれ・・・五、六までありました』が今は失念中、元歌は「富士の高嶺に降る雪も京都先斗町に降る雪も・・・（以下略）』と記されています。

『街の画伯の哲二さん　仰（くわえ）タバコに何思う
胸に秘めたる情熱は　ピカソ、マチスの比ではない

もう、もうとも、とてもうれしくなりました。

西在家先生のお手紙に哲治先生への率い出迎歌がありますがこの一番だけでももう、もう大感激です。実は先生のこの歌六十年前に、きれいな夕空の岩山見晴らし台で唄つてくれた思い出ソングなのです。

「そうか京都じゃなく東京で頑張るかと哲治先生、西在家先生、長作先生、池口先生川昌先生、明徳君、上京してからの制作や生活心えの条、古里岩手の景色をしつかり眺めてこの南部富士と約束し、イザ、ガンバレ！と励ましてくれた時の歌なのです。

岩山に岩高応援歌と哲治先生の替え歌がコダマしました。
ダンディーセブンソングの美しい虹もこれまた見事なものでした。

木造り校舎の哲二さん　北窓ガラスの向こうには
いつもほほえむ岩手富士　繪筆滑降　冬の山

山頂右に驚姿　山の中央ハート谷
迷山左につらなりて　クリスチャニヤの夏の山

かく、ぬる、えがくの部員たち　哲治ロードをひた走しる
画けど勝てない質と量　哲二タバコの煙のあと

スースツ姿の哲二さん　ネクタイ姿で筆をとる
われら部員もまねをして　今はダンディー手にタバコ
ゆらゆらゆらめく青春は　ほほえむ乙女の立ち姿
すがた求めて西東　スケフチ姿は　今いすこ

学びの席に名を彫りし こがれた姫は夢の中
昭和、平成と 三代続いて不二心・・・

整いを果たそうと 鈴ぎみる 哲二富士
様高がグンと高くなっているようを感じるこの頃です。
押忍